

経営比較分析表（令和6年度決算）

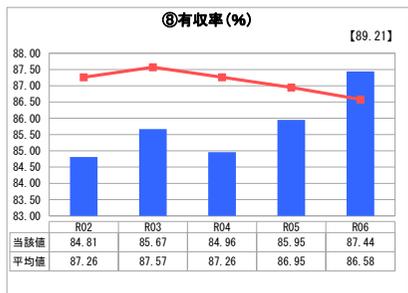
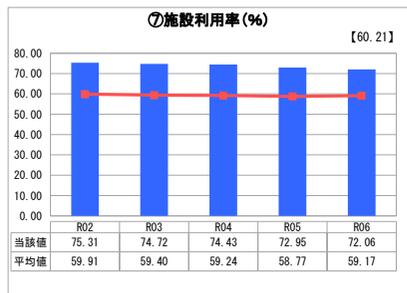
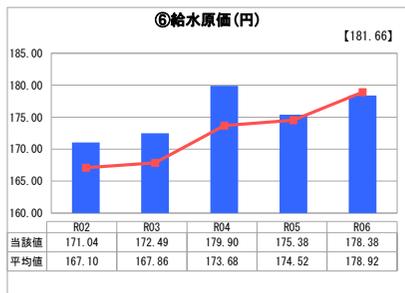
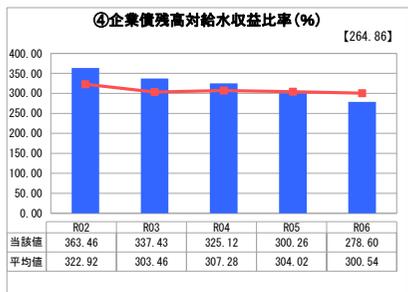
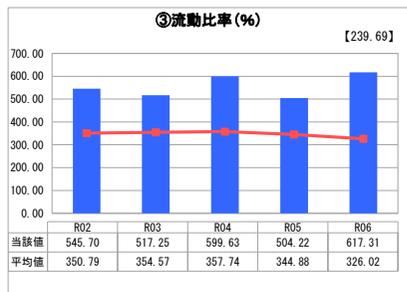
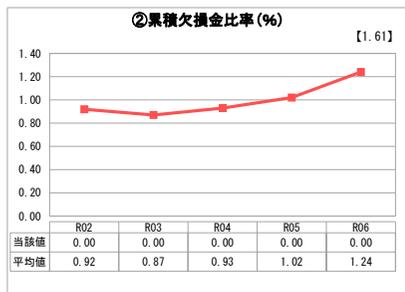
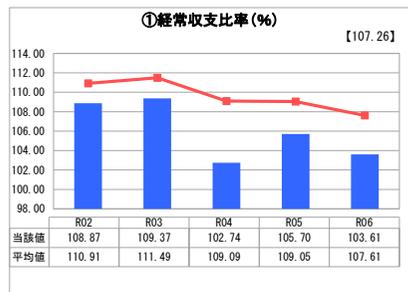
栃木県 真岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	76.37	84.16	3,190	

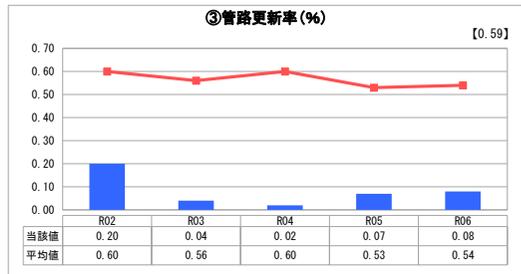
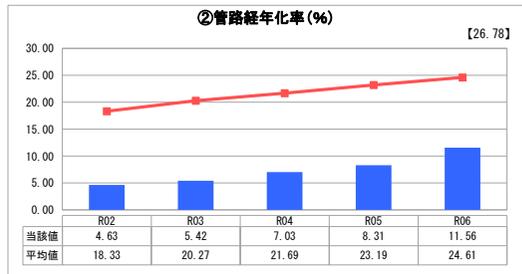
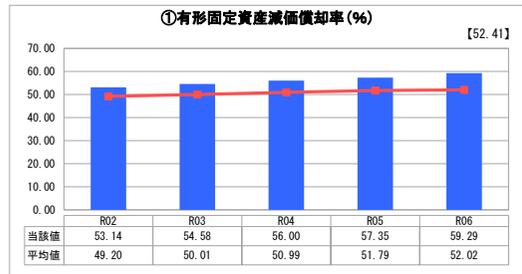
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
78,284	167.34	467.81
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
65,711	75.20	873.82

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 「経常収支比率」は100%を上回り、収支は黒字となっている。減価償却費、資産減耗費等、経常費用の増加によりR5に比べ減少し、類似団体平均を下回った。
- 「流動比率」は類似団体平均を大きく上回っており、短期的支払余力がある。
- 「企業債残高対給水収益比率」はR2からR5にかけて減少している。要因は起債借入額の減少によるものである。
- 「料金回収率」はR5に比べて経常費用が増加していることが要因となり、減少となった。100%を下回る状況が続いており、給水に係る費用を給水収益で賄うことが課題となっている。
- 「給水原価」はR5に比べ増加となった。経常費用増加が要因である。
- 「施設利用率」はR2以降、類似団体平均よりも高い水準を維持しており、効率的な施設利用を行うことができています。
- 「有収率」はR5に比べ改善された。年間の総配水量を調整し、早急な漏水対応を行うことで有収水量が増加したことにより効率性の向上につながった。

2. 老朽化の状況について

- 「有形固定資産減価償却率」はR2以降上昇しており、類似団体平均に比べ、資産の老朽化が進んでいる。
- 「管路経年率」も上昇しており、管路の老朽化が進んでいる。
- 「管路更新率」は類似団体平均を下回っている。現在、漏水の発生状況等を考慮し、緊急性の高い管路から更新を行っている。今後は水道ビジョンで掲げた将来像や整備方針の実現に向けて効率的な資産管理計画を作成し、更新を行うことで老朽化の改善を行う。

全体総括

現在の水道事業は経営の健全性と効率性を保っているものの、料金回収率の改善が課題である。職員給与費の増加、物価高騰の影響をから経常費用の増加が要因となっている。今後は引き続き経常費用削減に努めるとともに、給水収益の向上を目指した施策を検討していく必要がある。

また、全国的に公営企業に携わる人材不足も課題となっているが、民間業務委託範囲を拡大し、人材確保に努めている。

固定資産の状況については、人口減少が懸念される中、施設の老朽化に伴う更新需要は増大しており、サービス需要に合わせた資産管理計画を策定し、適切な更新の実施を行う必要がある。